

# 大阪・関西万博に向けた愛・地球博の理念継承活動としての「水と流域」プロジェクトにおける参加性（中間報告）

○古澤 礼太（中部大学 国際ESD・SDGsセンター）

キーワード：「水問題」「流域圏」「2024 大阪・関西万博」「愛・地球博」「持続可能な開発目標（SDGs）」「持続可能な開発のための教育（ESD）」

## 【1】目的

本発表の目的は、イベント学会および地球産業文化研究所（GISPRI）が2025年大阪・関西万博 TEAM EXPO に登録しているプロジェクトの一つである「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話」プロジェクトのフォーラムにおける参加性について検討することである。本発表は、2022年度から2025年度までの3年計画で実施している同プロジェクトの中間報告として位置づけ、これまでの成果と課題をあきらかにする。

## 【2】方法

本報告は、同プロジェクトの推進事務局長として報告者が参与観察した内容に基づく。本活動では、3年間の計画で、各年1回のフォーラムを開催し、最終年の2025年に大阪・関西万博会場内での国際対話フォーラムの実施をめざす。第1回目となるフォーラム、「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト 地域フォーラム2023 in Aichi」（以降、愛知フォーラムと呼ぶ）を2023年2月23日に開催した。

愛知フォーラムは、共催団体である中部ESD拠点協議会（事務局：中部大学）が過去15年にわたって培ってきた愛知県・岐阜県・三重県のサステナビリティに関するネットワークへの呼びかけにより、多様な主体の参加を得て、水関連の活動事例発表を含む分科会と全体会で構成した。

午前中の分科会に続いて、午後は基調講演とパネルディスカッションが開催され、最後のセッションでは全体討論を経て、3年間の「活動方針」を採択した。

分科会は、水問題を広くとらえて3分類したテーマに加えて、それらを横断的に関連させるSDGsの分科会を加えた4分科会を設定した。

1. 水と環境：水環境、利水、治水等
2. 水と生業：林業、農業、水産業、エネルギー等
3. 水と文化：まちづくり、観光、伝統知の活用等
4. SDGsの連携

## 【3】結果

同フォーラムの参加者は約200名あり、10時から18時半（交流会：17～18時半）の長時間にわたって全プログラムを実施した。午前中の分科会は、50団体が事例発表をおこない、それぞれの分科会に座長3名を置き、分科会の内容をまとめた。

午後のパネルディスカッションでは、各分科会の座長を務めた下記4名の有識者が、それぞれの活動を交えて、分科会の成果をまとめてディスカッションをおこなった。

第1分科会：秀島 栄三（名古屋工業大学都市基盤計画分野研究室 教授）

第2分科会：巽 好幸（ジオリブ研究所 所長、神戸大学 客員教授・名誉教授）

第3分科会：岩本 渉（アジア太平洋無形文化遺産研究センター〔IRCI〕 所長）

第4分科会：平原 依文（HI 合同会社代表、青年版ダボス会議 One Young World 日本代表）

さらに、各分科会から提示された課題を、休憩時間に紙面にまとめて「Aichi 活動方針2023」の文案を作成し、全体会で広く意見を募り、閉会時に採択した。

#### 【4】考察

本プロジェクトは、3年計画であり、多様な主体の参加による議論を通して、今日の水問題解決に向けた日本からの提言をまとめるものである。そのためには、学術、行政、企業や市民社会の関与が不可欠であるが、第1回目のフォーラムでは、とりわけ市民社会からのボトムアップ型の成果を求めた。それゆえに、午前の分科会から閉会の「活動方針」採択に至るまで、参加者の活動や意見を集約する方法でイベントを進めた。それによって作成された活動方針には、取りこぼした課題があった可能性も否めないが、イベントの「出会い性」と「参加性」を重視したことにより、参加者が一過性のイベント（フォーラム）の傾聴ではなく、主体性を持って本プロジェクトに関わるきっかけになったと考えられる。

また、発表者の情報は愛知フォーラム終了後に、ウェブサイトへ一般公開し、データベースの役割も担っている（図1）。2024年3月2日に大阪市中央公会堂で開催する第2回目のフォーラムへの参加希望団体も複数あり、継続性が確認された。こうしたボトムアップの成果を基盤に、今後は行政や企業の巻き込みを行う必要がある。

#### 【5】結論

コロナ禍を経て、ウェビナーやオンラインシンポジウムが一般化された昨今では、対面のフォーラムおよびシンポジウムに参加する意味づけがむずかしくなっている。とりわけ、テーマ型のフォーラムにおいては、講演を聞く受け身の形態から、情報を発信する双方向の参加型イベントへの移行が必要であり、その体系化が今後の課題である。

第1部「活動発表セッション」発表者資料（パネル・スライドは「#」をクリックしてご覧ください）

第1分科会：「水と環境」

発表者所属団体	発表者氏名	発表タイトル	ス ラ イ ド	パ ネ ル	
1	奥と子どものネットワーク	新玉 麻由	緑地公園に設置される自然再生した遊 歩道の効果	●	●
2	岡山県産物（水産物）	渡辺 由希	岡山「産地」産地を産地へ「多様な生 産」を産地（プロシエ）	●	●
3	名城大学 名城環境政策推進研究セン ター	藤田 守輝	環境性、経済性、豊穡性、科学性で 多様な環境政策を	●	●
4	九州大学工学研究科 環境社会部門	渡野 知子	持続可能な社会の構築に向けた多 様な環境政策の推進	●	●
5	オモトの環境政策推進	井上 祥一郎	水と暮らしが共生する、いかに生活 に寄り添うか	●	●
6	株式会社AgriConnect	渡辺 智	持続可能な農業の推進のための多 様な環境政策の推進	●	●
7	名古屋工業大学 高度社会工学研究セン ター	藤原 裕一	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●
8	水産庁環境政策推進部	藤田 謙	水産庁の多様な環境政策の推進	●	●
9	経済大学 環境政策推進部	内田 智恵	持続可能な社会の構築に向けた多 様な環境政策の推進	●	●
10	名城大学（中） 水産研究部	宇野 圭一	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●
11	長門川流域環境部（国土交通省 中部 地方整備局 豊後川管理事務所）	山崎 悠	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●
12	環境省・国土・水産省環境シンポジ ウム事務局	藤田 健二	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●

第2分科会：「水と生態」

発表者所属団体	発表者氏名	発表タイトル	ス ラ イ ド	パ ネ ル	
1	奥と子どものネットワーク	新玉 健一	自然再生した遊歩道の効果	●	●
2	中部大学 環境政策推進部	藤原 裕一	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●
3	環境政策推進部（国土交通省 中部 地方整備局 豊後川管理事務所）	山崎 悠	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●
4	環境省 水産政策推進部	藤田 謙	水産庁の多様な環境政策の推進	●	●
5	長門川流域環境部（国土交通省 中部 地方整備局 豊後川管理事務所）	山崎 悠	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●
6	九州大学工学研究科 環境社会部門	渡野 知子	持続可能な社会の構築に向けた多 様な環境政策の推進	●	●
7	環境省	藤田 謙	多様な環境政策の推進に向けた 多様な環境政策の推進	●	●
8	オモトの環境政策推進	井上 祥一郎	水と暮らしが共生する、いかに生活 に寄り添うか	●	●

図1 ウェブサイトの発表者資料